

- 問1 日本の乳牛飼育において、飲用として出荷される牛乳の生産地が、千葉県、神奈川県、愛知県といった大都市の周辺に多く見られる理由として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 埼玉県公立入試 類似）
1. 飲用牛乳は加工用生乳に比べて重量が軽く、輸送コストがほとんどかからないため、あえて都市部で生産されている。
 2. 大都市の周辺は北海道に比べて土地代が安く、乳牛を放牧するための広大な土地を確保しやすい環境にある。
 3. 飲用牛乳は加工品に比べて製品の鮮度を保つことが重視されるため、大消費地に近接した地域で生産されている。
 4. 法律によって、飲用牛乳は消費地と同じ地方自治体の中で生産・処理しなければならないと定められている。
- 問2 北海道の北東部に位置する海域で見られる流氷は、冬季の重要な観光資源となっています。この地域における流氷観光の具体的な内容として、最も適切なものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）
1. 砕氷船と呼ばれる特殊な船に乗り、海面の氷を割りながら進む様子を間近で見学する。
 2. 流氷の上を歩いて北方領土まで渡り、現地の歴史を学習するツアーに参加する。
 3. 暖流に乗って流氷とともにやってくるカツオやマグロなどの大型魚を一本釣りで狙う。
 4. 流氷を溶かして作った真水を大規模なパイプラインで本州へ送る施設を見学する。
- 問3 かつて農業に不向きであった石狩平野の泥炭地を、日本有数の稲作地帯へと変えるために行われた工夫や取り組みについて、正しい説明を選んでください。（2025年 千葉県公立入試 類似）
1. 地力を回復させるために、農地を数年ごとに休ませる「輪作」を導入した。
 2. 高台から水を引くための大規模な「ため池」を建設し、乾燥した土地に水分を供給した。
 3. 大規模な森林伐採を行い、燃やした灰を肥料として土地に混ぜる「焼畑」を繰り返した。
 4. 他の場所から性質の良い土を運び入れる「客土」や、排水路の整備といった土地改良を行った。
- 問4 北海道の農業経営に関する二〇〇五年から二〇二〇年の推移について、統計的な事実として正しい説明はどれですか。なお、この期間において農業経営体の総数は減少しており、経営耕地面積の合計は約百七万ヘクタールから約百三万ヘクタールへと微減しています。（2024年 大阪府公立入試 類似）
1. 団体経営の割合が低下したため、一経営体あたりの経営耕地面積は縮小した
 2. 経営耕地面積が微減した主な原因は、団体経営の数が大幅に減少したことにある
 3. 農業経営体の総数は減少したが、団体経営の数は増加し、経営の集約化が進んだ
 4. 農業経営体と団体経営の数がともに増加したため、耕地の奪い合いが起きた
- 問5 北海道の石狩平野において、かつて広範囲にわたって見られた、水分を多く含む植物の遺体が分解されずに積み重なってできた土地を何といいますか。この土地はもともと農業には適さない湿地帯でしたが、客土などの土地改良により現在は大規模な稲作地帯となっています。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
1. 干拓地
 2. 泥炭地
 3. シラス台地
 4. カルスト地形
- 問6 北海道の日本海沿岸に位置する稚内付近では、5月から6月にかけて月別平均日照時間がピークを迎えます。このような自然環境に関する説明として、誤っているものはどれですか。（2021年 兵庫県公立入試 類似）
1. 夏季の日照時間が長いのは、寒流である千島海流が宗谷海峡を通して日本海へ流れ込み、雲の発生を抑えるからである。
 2. 5月から6月にかけて日照時間が長くなるのは、梅雨前線の影響を本州ほど受けにくいことも背景にある。
 3. この地域が日本の他地域に比べて高緯度にあることは、夏季の昼の時間が長くなる要因となっている。
 4. 日本海を北上する対馬海流は暖流であり、この地域の気候に影響を与えている。
- 問7 日本国内の農産物統計において、北海道が全国の収穫量の100パーセントを占めており、主に砂糖の原料として利用される農作物はどれですか。（2016年 山口県公立入試 類似）
1. さとうきび
 2. こんにゃくいも
 3. てんさい
 4. じゃがいも
- 問8 北海道の東部に位置する根釧台地などの寒冷な地域において、乳牛を飼育して生乳や乳製品を生産する農業を何といいますか。牧草などの飼料生産と組み合わせられていることが特徴です。（2018年 長野県公立入試 類似）
1. 酪農
 2. 放牧
 3. 促成栽培
 4. 果樹農業
- 問9 北海道ではパルプ・紙・紙加工品製造業が地域の主要な産業の一つとなっています。この工業が北海道で発達した背景として、最も適切な理由を選びなさい。（2021年 京都府公立入試 類似）
1. 内陸部に高度な技術を持つ機械部品工場が集積しているため
 2. 海外から輸入した木材チップの加工に特化した貿易港があるため
 3. 大規模な消費地である東京圏に隣接しているため
 4. 原料となる豊かな森林資源が豊富に存在するため
- 問10 1960年から2010年までの50年間で、札幌市の人口は約62万人から約191万人へと3倍以上に急増しました。北海道全体の人口が1950年の約430万人から2010年の約551万人へと緩やかな推移を見せる中で、このような札幌市の人口動態が北海道全体に与えている状況として最も適切なものはどれですか。（2016年 群馬県公立入試 類似）
1. 札幌市の人口増加率よりも北海道全体の人口増加率の方が高く、人口の分散が起きている。
 2. 道内の各都市が札幌市と同様のペースで成長したため、札幌市の人口占有率は低下している。
 3. 道内人口に占める札幌市の割合が一貫して上昇し、札幌市への一極集中が進んでいる。
 4. 北海道全体の人口が減少局面に入ったことで、札幌市の人口も2010年に向けて激減した。
- 問11 北海道の農業産出額の構成を示したデータでは、乳用牛や肉用牛といった「畜産」が51.7%を占め、全国平均の31.4%を大きく上回っています。北海道において、このように畜産が盛んになった背景や理由として最も適切な説明はどれですか。（2017年 埼玉県公立入試 類似）
1. 広大な土地と冷涼な気候を活かし、大規模な牧草地を確保して酪農などを行うのに適していたため。
 2. 山がちで複雑な地形を活かし、小規模な土地で果樹栽培と畜産を組み合わせた多角経営を推進したため。
 3. 大消費地である東京周辺への輸送距離が非常に短く、新鮮な食肉や牛乳を即座に届けられる有利な立地であったため。
 4. 夏の高湿多湿な気候を活かし、広大な土地で年に二度、米を収穫する二期作が行われたため。
- 問12 北海道の気候的特色を活かした産業と、それに伴う人口の動きについて述べた文として、正しいものを選んでください。（2024年 岡山県公立入試 類似）
1. 冬の降雪が少ないため、一年中安定して工場を稼働させることができ、工業に従事する外国人人口が年間を通して安定している。
 2. 冬の降雪と夏の涼しい気候が観光資源となり、季節によって外国人人口の割合が大きく変動する要因となっている。
 3. 年間を通して温暖で湿潤な気候であるため、特定の時期に労働者が増減することなく、外国人人口は常に一定である。
 4. 梅雨の影響を強く受ける夏の気候を利用した稲作が盛んであり、その収穫期である秋にのみ外国人人口が急増する。